

無料

# すくらむ

かわさきの男女共同参画情報誌



20  
anniversary

すくらむ 21 開館 20 周年記念プロジェクト  
顔ハメすくらむ大作戦

vol.  
68  
2021.02

## 非正規シングル女性の 現状とこれから

<https://www.scrum21.or.jp/>

# 非正規シングル女性の

## 現状とこれから※1



1976 年生まれで、いわゆる就職氷河期世代の菊池さん。高卒で働き始めて、スーパーやデパートなどの非正規雇用の販売員として、何度も仕事を変えてきました。年を取るにつれて、こういう働き方に不安が大きくなり、38 歳の時に大学に。かなり追い詰められた気持ちだったそうです。数年経った今、現状をどのように見ているのか、そして、これからについて伺いました。

日本女性学習財団第 1 回未来大賞受賞・  
東京都立大学大学院人文科学研究科博士前期課程

きくち えつこ  
菊池悦子 さん

### ❁ 現状編 ❁

#### ノンエリートの非正規シングル女性が見えているか

4 年間の大学での勉強を経て、まだ勉強したいと思い、大学院に進みました。まだ始めたばかりですが、ノンエリートの女性、高卒で働いている女性たちのことを研究しています。どうして自分が大学に行きたいと思ったのか、大学 3 年生の時に日本女性学習財団のレポートに書いて大賞をいただきました※2。「どうして私たちは輝けないのだろう」というタイトルにしました。

私は「女性の輝く社会」や「女性活躍」という言葉が好きではありません。それは、「輝け」と言われても、私には輝く場所など用意されてないと憤りがあるからです。「女性の支援」は、出産／育児によって困難を抱える子どものいる女性を、どのようにしてサポートするかが最大の問題として想定されているように思います。自分たちのようにノンエリートで、非正規職ではあっても一応仕事はあって、子どものいないシングル女性が社会から見えていないのではないのでしょうか。

「輝く女性」と聞いて私がイメージする女性は、キャリア

として経歴に残る仕事に就いている女性や、産休や育休が取れるようなきちんとした条件で働くことのできている、家庭での生活もある女性です。実際の自分は、非正規職を転々として、履歴書にもマイナスになる履歴しか書けない状態でした。30 代後半で大学へ入る頃には、これから先、正規雇用には就けないことも見えてきましたし、結婚もしないだろうと思っていました。

女性活躍推進法には、「職業生活と家庭生活の両立をすることが、女性が働く上で大切なことです」と強調されています。でも、実際の自分は、そこからかなり遠いところにいるので、あまり現実感のないことと受け止めています。

#### フルタイムで働いても手取り 13 万円の生活

大学に入る前日までデパートのテナントで販売員をしていました。半年ごとの契約更新を繰り返しながら、約 4 年間働きました。賃金は、東京都の最低賃金が上がったなら 1 円単位で上がるというような条件でした。ボーナスもなかったです。年を取ることで、自分が働いていくことに対する不安がどんどん増えていきました。2015 年に大学

※1 2020 年 10 月 18 日開催の協働事業パネルディスカッション「非正規シングル女性の現状とこれから Part2 コロナ禍での非正規問題を考える」の内容を再構成しました。

※2 菊池悦子「第 1 回日本女性学習財団 未来大賞 受賞レポート どうして私たちは輝けないのだろう」『We learn』2018.3

に入りましたが、2014年頃から受験勉強をするために、労働時間を減らしていました。最後にフルタイムで働いていた2013年の給与明細を見ると、月20日出勤して計174時間（平均すると8.7時間/日）のフルタイム勤務でも、月収で16万円ほど、税など引いて手取りで13万円くらい。これは5月で母の日などギフトに関連する繁忙期で、いつもよりちょっと給料がいい時でした。そういう生活の中でももちろん、経済的な不安も大きかったのですが、アイデンティティという意味での悩みも自分の中で大きくなっていました。

半年ごとの契約更新は、会社の都合が悪くなったらやめてくださいという意味と受け止めていました。自分がやっている仕事は重要ではなく、誰がやっても同じ仕事だと思われていると感じていました。同時に、給料の割には責任が重いと思うこともありました。正社員と比べて、研修の機会もそんなに貰えませんし、会社では疎外感があり、自分がこの会社の一部である意識は持ちにくかったです。

そのような中で、職業的なキャリアも持たず、家に帰ると「母」でも「妻」でもない立場で、いつまで経っても経済的に自立できなくて、親に頼っている自分は恥ずかしいと感じていました。自分の家族を持っていないことで、社会の中で繋がりが無いと思っていました。それでも、若いうちは、いつか自分も状況が変わるのではないかと漠然とした希望もありましたが、35歳を過ぎる頃から、もう正社員になることも難しいとの思いもある中で、年齢的に転職することも、もう家族を作るのも無理だろうと考えるようになりました。このような状態で、ずっと生きていく自分は何者だろうとアイデンティティの問題も感じるようになりました。

## 社会背景が、私個人の問題としても深く関与

社会背景としての非正規雇用率の上昇が、私個人の問題としても深く関わっていると思います。1990年代以降2010年代の間で、非正規雇用者数が2倍以上に増えています。2020年8月は労働者全体で36.9%、女性だけだと53.9%、半数以上の人非正規で働いています。50歳の時点で一度も結婚したことのない人の割合を意味する生涯未婚率は2015年の時点で、女性は14%です。結婚しない生き方もそれほど珍しくないことがわかります。7040問

題、8050問題に関しては、私も70代の親に40代の私が経済的に頼っている状況で、これも、私だけの問題ではありませんでした。

内閣府が出している就職氷河期世代の支援プログラムの概要には、30代半ばから40代半ばになっている就職氷河期世代は、キャリア形成が難しいことや、現在でも不安定な仕事に就いているとあります。国は今、就職氷河期世代を支援しようとしています。就職氷河期世代のための就職ポータルサイトが今年開かれましたが、女性に向けてどういった支援が用意されているのかを見てみると、内閣府男女共同参画局のポータルサイトにたどり着くようになっていました。その内容は、仕事と家事や育児との両立が中心に据えられているように見えました。就職氷河期世代の女性に特化した情報がないと感じ、がっかりしました。非正規シングル女性は突き離されているように感じています。「自分の能力不足によって今の状況がある」との思いを抱かせる支援のあり方があると思います。

## 「不本意非正規就業」の捉え方

また、総務省の労働力調査(2018年)では、35から44歳の就職氷河期世代で、不本位ながら非正規で働いていると答えたのが女性は9.6%と出ていました。この数字だけを見ると、非正規雇用は女性が望んでいる働き方に見えてしまうかと思えます。

しかし、横浜で非正規シングル女性を対象とした調査<sup>※3</sup>を行った結果では、「なぜ非正規雇用についているのか」と聞いた質問には60%以上の人「正社員として働ける会社がなかったから」と答えています。6割が不本意非正規というのは、私が働いていた中で感じていたものと近いように思いました。この調査を行った団体が、それまで行ってきた就業支援事業の対象について、こぼれ落ちている対象者がいないかを見直して浮かび上がったのが非正規シングルで、中でも若年層ではなくて、働けない/無職の状態でもない、シングルマザーでもない、35歳から44歳以降の非正規シングル女性でした。この層へ支援策が届いていないのが現状です。女性の不本意非正規就業の割合が1割にも満たないので、国は支援策の必要を感じていないのかもしれませんが。

<sup>※3</sup> 公益財団法人 横浜市男女共同参画推進協会・一般財団法人 大阪市男女共同参画のまち創生協会・公立大学法人福岡女子大学 野依智子共同実施  
「非正規職シングル女性の社会的支援に向けたニーズ調査」報告書、2016年3月。  
<https://www.hiseiki-singlewomen.info/list/jigyoreport/> (2020.11.22 取得)

## 結婚によって経済の問題は解決するか？

「女性活躍」の対象は、子育ての困難によって再就職が難しい女性や、すでにキャリアがある女性たちがどのようにキャリアアップしていくかという、キャリアアップの問題だと捉えられてきたことが背景にあると思います。非正規シングル女性は、まったく食べられないわけではなく、基本的にはキャリアアップとは無関係なので、これまでそういった対象になっていなかったと考えられます。その背景には、男性は大黒柱として稼ぎ家族を養っていかなければならないという考えや、女性は家庭を守るという考え方の、いわゆる「男性稼ぎ主モデル」が、観念に残っていると思います。

実際に、私も働いている30代の時に、正社員の男性上司に対して、「私も正規になりたいんですが、どういう方法がありますか」と尋ねた時に、「あなたはなぜ正規になりたいの？結婚すればいいじゃない？」と言われました。私は「大学を受けるつもりなんです」と話した時も、「何で大学を受けるの？それよりも結婚した方が生活は安定するのではないの？」と言われました。まだまだ結婚によって女性の経済的な問題が解決すると思っている人は決して少なくありません。そのことが、非正規シングル女性の困難を生み出しているのではないかと考えます。

## 非正規シングル女性の貧困の背景にあるもの

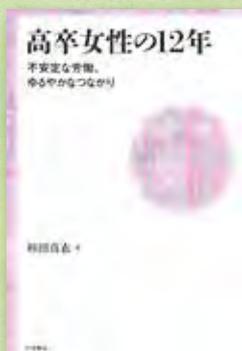
非正規シングル女性が貧困になる理由は、賃金体系に男性労働者が家族を扶養するという観念や制度が残ってい

るからと考えられます。そのため、シングルマザーや高齢単身女性、非正規シングル女性は貧困に陥りやすいことが指摘されています。女性は、正規男性労働者の配偶者がいるとの前提により、シングル女性の貧困が生まれています。

新型コロナウイルスの影響によって10月初めの時点で、解雇や雇い止めは見込みも含めて約6万3千人、このうち非正規は約3万1千人と報告されています。しかし、2020年7月期に非正規雇用の従業員数が前年同月に比較して131万人減っていて、そのうち、81万人が女性です。宿泊飲食業における女性非正規労働者の割合は54%です。新型コロナの影響で営業時間が不安定になったのは、もともと景気の影響を受けやすい業種です。コロナの影響だけではなく、経済が悪化すると、最初に切られてしまうのが非正規職の女性ではないかと思えます。

女性は、家庭内のケアの担い手で、配偶者に養われる存在であるとの考えが根強く残っていると思います。その一方で、女性もきちんと仕事を持たなければとの考え方もあって、そうした社会規範の間で私自身もアイデンティティの問題でかなり悩みました。ただ、男性への支援が要らないとか、子どもを持っている女性への支援が要らないと考えているわけではまったくなく、それは同じ問題の表裏であって、家族を養うために男性は長時間労働や転勤をしなければならない、女性は育児のために仕事をセーブしなければならないことが、同時に起きていると考えています。性別役割分業システムが変わらなければ、非正規シングル女性の困難も変わっていかないとします。それに加えて、男女間の賃金格差が解消されること、世帯単位ではなく、個人単位で生きていける社会になってほしいと思います。

もっと  
知りたい方には…



『高卒女性の12年  
不安定な労働、  
ゆるやかなつながり』

杉田真衣著  
大月書店  
2015年7月



『下層化する女性たち  
労働と家庭からの  
排除と貧困』

小杉礼子・宮本みち子編著  
勁草書房  
2015年8月

岩永さんは、生活保護を専門とする研究者です。菊池さんのお話を受けて、「女性の貧困」に関する現状と、これからについて、お話を伺いました。

日本女子大学人間社会学部准教授

いわなが りえ  
**岩永 理恵** さん



## 「女性の貧困」が、いまだ明らかにされていない日本

先ほど菊池さんが当事者の視点から包括的に話されたので、別の角度からお話をしたいと思います。

最初に強調しておきたいのは、今日の私の結論です。

「これからを考える」のが今日のテーマですが、「これからを考える」前に、日本における女性の貧困が、残念ながら、これまでに明らかにされていないというのが私の立場です。

世界では30~40年前に「貧困の女性化」が言われました。これは、貧困世帯の中で女性が世帯主という割合が多数を占めることを指し、アメリカなど先進国に見られる現象です。しかし、日本は、それが見られない例外的な国と言われています。つまり、我慢して結婚していたり、経済的に自立する手段を得ることもできていないということで、そこが問題です。ひとまず、女性が経済的自立をする環境を整えることが大変重要ですが、他方で、女性の生きづらさは経済的な概念だけでは捉えきれないと思います。

## 女性のアイデンティティと生きづらさ

菊池さんのお話でもアイデンティティの問題で悩んだという話がありましたが、このことが女性の生きづらさにつながってくるのではないかと思います。

私自身は、2011年の東日本大震災以降の状況を知り、また、2015年に日本女子大学に移ったこともあり、女性の置かれている状況の多様さを感じて、研究の視点としてジェンダーについて忘れないよう努力してきました。今の時代、女子大の意味を問われる方もおられるかもし

れませんが、例えば、オンラインで授業をする際に、学生にも顔出ししてもらおうとする、共学の場合にかわいい女の子を男子学生が探す、という問題のある行動がみられて、学生のビデオを切らせていると聞きました。まだ女性が、安心して学ぶ環境がないのかと愕然としました。翻って、そのような心配をせずにオンラインで授業ができる、授業を受けることができるところが、女子大の利点の一つだと考えています。まだまだ社会全体に、女性が安心して学べない状況があると思っています。今の時代にも、女子大の存在意義があるということでしょう。

## 生活保護利用者の年齢層別男女割合からわかること

ところで、女性の貧困が明らかになっていないということに関して、生活保護利用者の実態をみてみたいと思います。既存の調査をみてみますと、生活保護を利用している人全体では男 49.5%、女 50.9% で、ほぼ男女が半々くらいです。年齢別に見ると、20歳から49歳までの小・中・高校生くらいまでの子どもがいる女性と、80歳以上が 10.0% と大変女性が多いことがわかるかと思います(次頁図)。つまり、母子世帯と高齢期の女性が、生活保護制度に捕捉されていると考えられます。母子世帯と高齢期の女性の貧困は、これまでもある程度論じられているということが反映された結果ではと考えます。

他方で、貧困に陥りやすい女性が世帯主である割合そのものが少ないこともわかります。これは、背景として、性別役割分業を前提とした制度と、そこから生じる女性らしさの心理的拘束によって女性が家庭に縛り付けられていることが推測できるのではないかと思います。

## 生活保護利用者の年齢層別男女割合

	総 数	男		女	
総 数	2,068,958	1,024,483	49.5%	1,044,475	50.5%
～ 19歳	222,629	114,327	5.5%	108,302	5.2%
20 ～ 24	24,165	10,353	0.5%	13,812	0.7%
25 ～ 29	29,365	11,596	0.6%	17,769	0.9%
30 ～ 34	41,963	16,353	0.8%	25,610	1.2%
35 ～ 39	59,613	24,052	1.2%	35,561	1.7%
40 ～ 44	87,935	38,126	1.8%	49,809	2.4%
45 ～ 49	123,837	59,431	2.9%	64,406	3.1%
50 ～ 54	128,560	69,805	3.4%	58,755	2.8%
55 ～ 59	137,819	82,948	4.0%	54,871	2.7%
60 ～ 64	171,357	108,225	5.2%	63,132	3.1%
65 ～ 69	259,664	157,143	7.6%	102,521	5.0%
70 ～ 74	253,846	135,724	6.6%	118,122	5.7%
75 ～ 79	228,606	103,073	5.0%	125,533	6.1%
80歳以上	299,599	93,327	4.5%	206,272	10.0%
平均年齢（歳）	58.4	57.3		59.4	

厚生労働省『平成30年度被保護者調査』「2-1 被保護人員—平均年齢、続柄・級地・世帯人員・性・年齢階級別」より岩永作成。

### 社会的排除とは？

「社会的排除」とは、何らかの理由で個人または集団が社会から排除されている状態のことです。例えば、男と女では男が女を排除する関係にある、あるいは、大卒と高卒では大卒が高卒を排除する関係にある、また、正規と非正規では、正規が非正規を排除する関係にあるという状況を指します。さらに、女性の中でも「排除する／排除される」という関係があると考えることが大事かと思えます。「子どもがいる／子どもがいない」「定住している／定住していない」などが、社会的排除という言葉で表されているわけです。これらを含めて貧困の概念を考えていくことが大事です。その他にも、例えば、社会関係からの排除、社会の重要な活動への参加が十分にできないことや、市民権を行使できないといった、自分には発言権がないと感ずることが、自己評価を下げることにつながる。貧困であることによって、世間のスティグマ<sup>※4</sup>もあるし、自己評価も下がる傾向があると言われています。このように、いくつもの指標の寄せ集めによって、それらが相互に関係していると考えるのが大事なところなのです。

### 自分の人生に希望が持て、満足を感じることが出来る働き方が選べること

女性の貧困を明らかにしていくのに乗り越えなければならぬハードルを話したいと思います。貧困概念に含めた社会的排除に対抗するための方法として、イギリスの貧困研究者が言っているように、市民の声を反映させることに効果があるとすれば、本当は当事者の声を反映していきたいわけです。しかし、声を挙げることが非常に困難な人もいます。自己評価が低い人も、そこに含まれると思います。

国際比較で見ても、男女とも、自己評価や満足度が低いです。アメリカと比べても、自己満足の割合が低い。特に女性が低く、どちらかといえば、歳を取るにつれて自己評価が低くなっていくことがわかります。つまり、経済的な自立だけではなく、希望を持てることが重要で、そのためには、経済的立場の弱さを踏まえ、労働環境の整備が重要です。正規職で働くことがゴールではなくて、多くの人々が自分の人生に希望を持てることが大事。満足を感じることが出来る働き方を選べるのが大事かと思えます。

<sup>※4</sup> 差別や偏見のことを指す。貧困に関しては、貧困である人びとに対して、間違った認識や根拠のない認識をされること。また、そのことで、不利益を被ること。





## 長期自宅避難、その時あなたは～？（ランプ作り編）

中国の武漢で初めて新型コロナウイルス感染が確認されてから約1年が経とうとしています。また、2020年12月には英国で新型コロナウイルス変異種の感染急増を受け、フランスとドイツは20日、英国からの入国停止や規制を決めるなど、このコロナウイルスの感染は収束の見通しが全くたない状況です。

この川崎市も大きな風水害の被害を受け、避難所への避難が必要となった方々も大勢いらっしゃったかと思います。その際には、各自治体ですでに新型コロナウイルス感染拡大の状況下での避難所受け入れ体制なども検討されていました。

私たちJKBは自宅避難が可能な方は自宅で長期避難生活の術を身につけることが重要だとこれまでも発信してきました。私たちが発信する術は、基本どこのご家庭にもある生活用品を活用しています。

そこで、今回は「安全・かんたん 手作りランプ、ふしぎな卓上コンロ」を紹介します。準備するものは、サラダ油、ティシュペーパー、アルミホイル、つまようじ、ガラスコップ(またはジャム瓶等)です。ガラスコップにサラダ油を入れ、ティシュペーパーで芯を作る、とてもシンプルで簡単にランプを作ることができます。これを

おすすめする理由は、子どもも楽しく作ることができること、ランプという役割だけでなく、ランプの応用編としてアルミの飲料缶でコンロを作ることができ、お鍋でご飯も炊くことができることです。

詳しい作り方は、「①安全・かんたん 手作りランプ ②ふしぎな卓上コンロ～社団法人市民防災研究所」をご覧ください。

いざという時に全て自宅に準備できているわけではなく、また防災グッズを買い揃えるとなると躊躇してしまいませんか？まずは、どこの家にもある生活用品を活用する術をこの機会に実際やってみることをおすすめします。



● 参照HP:公益財団法人市民防災研究所 <http://www.sbk.or.jp>

女性の視点でつくるかわさき防災プロジェクト（通称：JKB）

## パッシブ・アグレッシブ

21 すくらむコラム

今、友人が出した本の販売促進を手伝っている。一人でも多くの人に本を手にとってもらおう。それがゴールだ。そのために本の魅力を伝える書店イベントを各地で行っている▼かつては対面開催が当たり前だった。しかし、コロナが蔓延する今なかなか思うようにはいかない。出版社は遠方なので都内に出ることができない。でもその点はオンライン開催ならクリアできる。事実、書店からはオンライン開催の要望もある。書店ごとに運営方法が違ったりタスクも多岐にわたったりするが、試行錯誤しながら使い続けているのは皆同じだろうから、あとは習うより慣れるだ、そう思っていた▼そんなある日、書店からオンライン開催を命ぜられた。習うより慣れる絶好のチャンスだ。当然取り組むものと思った。しかし編集者の女性が「私に司会やzoomができると思えない」と言うのである。困った。

できる/できないの問題ではなくゴール達成のためにするのは？あの手この手で説得したが、頑として譲らない。とうとうAさんは業を煮やした。そして「なら進行はSさん(私)に任せます」と言った。するとどうだろう、編集者はこう答えたのだ。「じゃあ私ははしなくていいんですか?」……んんん?ということは、したかったということ?ならなぜ初めに言わないの?▼こうした言動を「パッシブ・アグレッシブ」(受動的攻撃性)というらしい。相手に直接不満をぶつけず、消極的・否定的な態度を取って相手を攻撃するやり方だ。受け身を美德としがちな女性たちの奥ゆかしい行為としてたまに見かけるが、物わかりのいい女性に徹して判断力・決断力を相手に委ねることをよしとする姿に、自分の意思はないのかととても不安に駆られてしまう(し)。

## 全国女性会館協議会主催 第14回 事業企画大賞 奨励賞を受賞しました!

### 『シニアシングル女性のためのサバイバル読本』の制作につなげる 防災・減災分野の女性リーダー養成プロジェクト

川崎市男女共同参画センターでは、東日本大震災後、2011年度から男女共同参画の視点から防災・減災活動に取り組んできました。女性の視点が不可欠と言われながら、地域の女性リーダーがまだまだ少ない現状があります。

そこで、2019年度は女性の防災リーダーを増やし、横のつながりをつくりながら、実際にそれぞれの地域で活躍していくための仕組みを作ること、女性の視点を活かした防災冊子を改訂し普及することに取り組み、奨励賞をいただきました。

出来上がった防災冊子は、シニアシングル女性を主な対象と想定した冊子ですが、離れて暮らす中年世代の家族や、シニア男性、町内会の防災委員さんやひとり暮らしの高齢者の見守り活動をしている民生児童委員さんなどからも活用いただいています。2020年度も継続した活動を展開しています。



#### 寄せられた感想 (70代以上の読者の声の一部を紹介)

- 冊子の大きさ、昔なつかしいノートのデザイン、字の大きさや、内容のまとめ方が素晴らしく、少し読んでみましたが、いつも自分が座っているところに置いてあるカゴに入れて、何回もよく読んで、頭にいれて、身につけたいと思います。
- 避難経路も毎朝の散歩に入れて確認。安心カードも身につきました。大きな冊子に字も大きく苦勞せずに1時間かけて、数回読み直しました。知らなかったことをたくさん教えていただきありがとうございます。何となく災害に立ち向かえる気持ちです。デイトレ(トレーニング型デイサービス)で仲間にもこの安心を披露しております。

川崎市の取り組みが全国紙(読売新聞全国版2020.3.8シリーズ連載「シングルスタイル」)で紹介された後、掲載記事の書籍化によって、広く読まれることにつながっています。



2020年12月発行  
(編著者) 森川暁子  
(発行) 中央公論新社  
(価格) 1,500円(+税)



## BOOKS



2020年6月発行  
 (著者) 澤渡夏代ブランド・  
 小島ブンゴート孝子  
 (出版社) 大月書店  
 (価格) 1,800円(税別)

## 『デンマークの女性が輝いているわけ 幸福先進国の社会づくり』

澤渡夏代ブランドさん、小島ブンゴート孝子さんはともに、デンマーク人と結婚し、「妻」「母」「女性」としてかの地に暮らしてそれぞれ半世紀になる日本人女性だ。現在でも、日本社会では、女性がこれら3役をこなして生きていくことは並々ならぬ困難を伴う。その「常識」から考えると、彼女ら二人の半生も同様だったのだろうと考えてしまう。しかし、日丹両国の架け橋になる仕事をしてきた二人は言う、「デンマークには、誰もが安心して家庭を営み、また自分のやりたい仕事に専念することを可能にする仕組みが存在」するのだと。

本書は全5章から成る。デンマークという国を紹介し(第1章)、女性と仕事にまつわる制度や、精神的な自立にも触れ(第2章)、少子化を乗り越えた「社会の子」づくりを解説する(第3章)。現状のあとに、それらを実現してきた女性たちの運動の歴史(第4章)と、著者らの個人史を振り返る(第5章)。インタビューやコラムもあり情報に富む。女性の地位を考えるときに羨望の国であるデンマークも、受け身で待っているだけでは実現されなかった。2020年代の日本社会に暮らす者に与える示唆は多い。



2020年9月発行  
 (著者) 小室淑恵・天野妙  
 (発行) PHP研究所  
 (価格) 880円(税別)

## 『男性の育休 家族・企業・経済はこう変わる』

男性が子育てにかかわることや育休を取得することに対する社会の意識は、肯定的なものが増えてきている。しかし、実際に育休を取得している男性は2020年時点で7.48%であり、希望が叶っているとは言い難い。厚生労働省を始めとする政府の取組は、子育て世代の男性を対象とする意識啓発に終始していると、2009年に始まったイクメンプロジェクトメンバーが、その限界に「プロジェクトの失敗」を宣言するまでになった。男性は育休を取りたがっているのに、取得しない/できない理由を男性の意識に求めても意味がないからだ。本書は、その後「男性育休義務化プロジェクト」を開始した小室・天野両氏の共著である。男性の育休にまつわる7つの誤解への丁寧な解説

も有用。「共働きの家庭でない」と育休は取れない」や「休むのに給付金をもらおうと、会社に金銭的な負担をかける」も誤解の例だ。企業に男性の育休を義務づけることは、希望する男性の育休を叶えるだけでなく、日本企業が生産性を上げて業績を伸ばすことにつながるという。男性社員の育休取得率100%、残業ゼロを実現し、人材採用に成功した中小企業の事例も紹介されている。企業経営者、政策担当者、人事担当者だけでなく、今後よりよい日本社会に暮らしたい人間には必読の書と言える。



2020年10月発行  
 (編集) 大学共同利用機関法人 人間文化  
 研究機構 国立歴史民俗博物館  
 (価格) 2,273円(税別)

## 『企画展示 <sup>ジェンダー</sup>性差の日本史』

私は歴史に興味の持てない子どもだった。自分の歴史(年齢)が少なすぎて、悠久の時間の流れにリアリティが持てなかったことが理由のひとつだったと、自分の歴史が十分になってから認識した。もうひとつの理由は、子どもながらに男性中心主義を感じ取っていたからだ。書かれた歴史の登場人物はほとんど男性で、たまに女性に触られるかと思えば、「悪女」か「絶世の美女」、あるいは本人の名前はなく誰かの娘や妻と記載され、「人間」として描かれていることはほぼない。これまでの歴史がhistory (his story=男性の物語)だと指摘され、her story (=女性の物語)を綴る重要性がフェミニストたちによって主張されてからかなり時が経つ。この指摘を知ったとき、正鵠を得ていると思った

ものだ。本書は、2020年10月から12月上旬にかけて国立歴史民俗博物館で開催された企画展示の図録である。展示は大きく3つのテーマから成る。「政治空間における男女」では、人びとを「男」と「女」に二分し異なる役割を定める社会は古代律令国家から始まり、政治の場から女性を排除する近代国家の形成から戦後改革までを辿る。「仕事とくらしのなかのジェンダー」では、男女の職業に対する私たちのイメージが生まれてきた背景を知ることになる。「性の売買と社会」では、中世から戦後までの性の売買にしばってその実像を明らかにする歴史展示としては異例のもの。図録が短い期間で5刷(10,000部)も、歴博史上初であり、一見の価値がある。

## イクメンコラム

イクメン研究所に所属し活動している研究員がつぶやく“イクメンコラム”。今号は、娘の食わず嫌いに手を焼いているDパパが、自分の読まず嫌いを反省。男性も妊娠・出産する設定の作品を読み、苦手だった読書感想文を綴っております。



### 『ヒヤマケンタロウの妊娠』を読んで ～現代日本で、男性が妊娠したら～

現在、3歳になる娘の育児中です。なるべく好き嫌いがないようにメニューにも気をつけ、なんとか食べさせようと四苦八苦。食わず嫌いならぬ読まず嫌いなら自分にもあると思ったのが『ヒヤマケンタロウの妊娠』※。タイトルから「男性が妊娠してその大変さを思い知れという本だろう」と敬遠していたのですが、読み始めると続編の育児編まで一気に読んでしまいました。

クリニックに行って妊娠が確定した時、仕事をどうしようと悩み、普段食べられていたものが食べられなくなり、お酒も控えて仕事後の付き合いもできなくなり、電車に乗るのが怖いと思うようになること。産むこと自体が不安なこと。こちらへんは男性女性関係なく、産むとなったら同じ思いをするんだろうな。男性に妊娠を告げられてドギマギする女性という逆転はおもしろい。保育園の呼び出しがかかって他ならぬパパが行かなければならないところは、現実の逆転ではありますが、産むのがどちらかという問題ではないなあ。

男性が妊娠したからこそ生きてくる話は、男性が出産する（育児を主でやる）ことへの偏見や、妊娠を恥じるどころ、産む／産まないについて真剣に

考えなければならないところか。

産む立場が逆転しても変わらないのは、男性が妊娠・出産・育児について理解を示しただけで称賛されること。「イクメン」という言葉がはやり出した頃に実際によく見られた光景。子どもを産んだけど、あとはママに任せて仕事優先なパパに対して、ママが「子どもを産んでも、育児をしなかったらパパがいる意味が分からない。」と言うシーンは、ドキリとします。たとえ出産というウルトラCを担ったとしても、その後ずっと続く大変さに対しては何のフォローにもならないんですね。

出産編は今から7年前に出版され、今と状況が違うとは思ふものの、ひとつだけ違和感が。それは、電車の中であかちゃんが泣き出して困っているパパが、乗客から舌打ちをされるシーン。ママが遭遇している問題の逆転でしょうが、現実には、パパだったら舌打ちされません。弱い立場に対してだけ強く出るのが今の世の中。誰であろうが困っている人がいたら助けてあげよう、そうでなくてもせめて見守ってあげよう。言葉が分かってきた娘に対して言っていることが、ちゃんと実現される世の中にしていきたいです。

### 今回の学び

- ☑ 作品の設定により、いろいろ考えを深めたDパパ、「読まず嫌い」を反省。
- ☑ こどもに「人に親切に」と言う前に、自分も一番身近なママの気持ちを汲んでいるかを振り返ろう。
- ☑ 産んでも産まなくてもこどもにとったら同じ「親」。ちゃんと日々に関わっていこう。



### イクメン研究所とは？

「男女共同参画」って、女性の問題に捉えられがちです。でも、男性たちが地域や家庭で“活躍”することも、とっても大切なことなんです。

すくらむ21では、男性を対象とした事業を「イクメン研究所」としてくり、男性が地域へのデビューになりうる契機（第1子誕生）をとらえての事業展開を行っています。

イクメン研究所の詳細については、<https://www.scrum21.or.jp/welfare/ikimen/> をご覧ください。

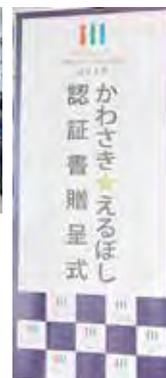
※『ヒヤマケンタロウの妊娠』（坂井恵理著、講談社、2013年）、『ヒヤマケンタロウの妊娠 育児編（上）』（坂井恵理著、講談社、電子書籍のみ）。

## 令和2年度 「かわさき☆えるぼし」認証企業が決定しました

川崎市では、女性の活躍推進、ワーク・ライフ・バランスを推進するため、働きやすい職場づくりに積極的に取り組んでいる中小企業を「かわさき☆えるぼし」認証企業として認証し支援しています。制度創設から3回目の募集となる今年度は、平成30年度に認証した企業の更新22社のほか、新たに18社を「かわさき☆えるぼし」認証企業として決定いたしました。

昨年度に認証した企業と合わせて59社が「かわさき☆えるぼし」認証企業となり、市内中小企業における女性活躍推進の取組が広まりつつあります。

認証企業59社の一覧は、川崎市ホームページをご覧ください。  
<https://www.city.kawasaki.jp/250/page/0000123776.html>



認証企業一覧  
QRコード

**令和3年度も認証企業を募集します!お問合せやご相談は随時、お受けしています!**

**皆さまも認証企業に仲間入りしてみませんか?**

**①対象**：常時雇用従業員の数が300人以下で、川崎市内に事業所又は事務所を有する企業等

**②認証取得によるメリット**：

- 認証マークを名刺等や企業ホームページで使用できるなど、「かわさき☆えるぼし」認証企業であることのPR
- 川崎市ホームページ等での取組紹介
- 人材確保支援（就職説明会等における参加優先枠の利用）
- 公共調達の入札等において利用する主観評価項目点の付与

【問合せ】

川崎市市民文化局人権・男女共同参画室 TEL：044-200-2300 FAX：044-200-3914

かわさき☆えるぼし

検索 🔍

## 令和3（2021）年度の施設の休館日についてのお知らせ

平素は川崎市男女共同参画センター（すくらむ21）をご利用いただきまして誠にありがとうございます。

令和3（2021）年度の休館日についてお知らせします。

年未年始期間中（12月29日～1月3日）に加え、以下の通り、下半期（10月～）から毎月第3火曜が休館になります。あらかじめご了承ください。

上半期	2021年 4/20（火）	6/15（火）	8/17（火）			
下半期	10/19（火）	11/16（火）	12/21（火）	2022年 1/18（火）	2/15（火）	3/15（火）

※清掃作業・設備点検等により、一般の方は入館することができませんのでご注意ください。

かわさきの男女共同参画情報誌

**すくらむ**

発行年月 令和3（2021）年2月  
編集・発行 川崎市男女共同参画センター（すくらむ21）  
所在地 〒213-0001  
川崎市高津区溝口2丁目20番1号  
ホームページ <https://www.scrum21.or.jp/>  
電話 044-813-0808  
F A X 044-813-0864



植物油インキ（植物油、または植物油を原料としたエステルを一定の割合以上含まれたインキ（インク））を使用しています。